

ウィキペディア

蘇我入鹿

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

蘇我 入鹿（そが の いるか）は、飛鳥時代の豪族。蘇我蝦夷の子。大臣として大和朝廷の有力者であったが、乙巳の変において討たれ、その後蘇我氏が凋落するきっかけとなった。

目次

生涯

学説

関連史跡

入鹿が登場する作品

戯曲

小説

漫画

テレビドラマ

脚注

関連項目

生涯

以下は主に『日本書紀』などの記述による。日付は旧暦。

青少年期は僧・旻に学問堂で学んだ秀才だったと言われている。

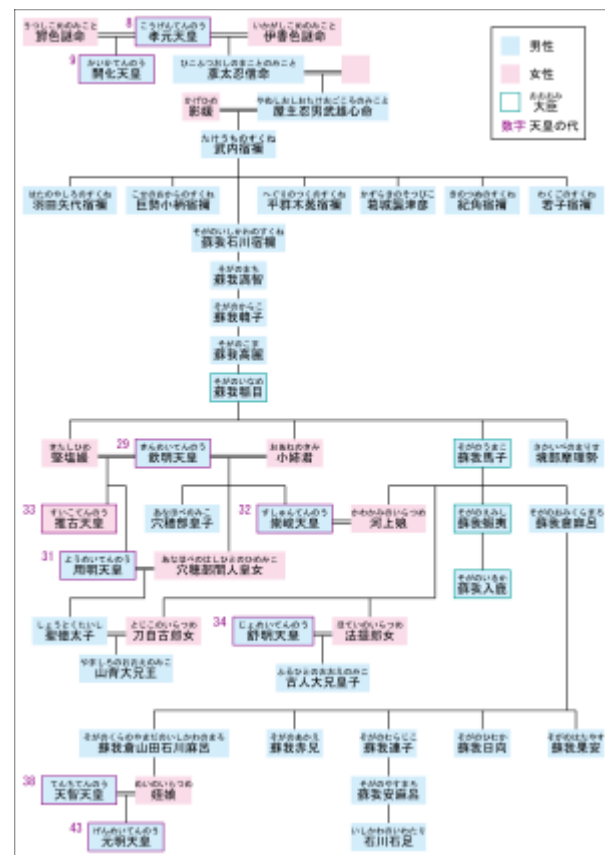
蝦夷が大臣であった皇極天皇元年（**642**年）、皇極天皇の即位に伴い、父に代わって国政を掌理する。同年7月**23**日には従者が白色の雀の雛を手に入れた。雀は祖父の蘇我馬子を表された事があるとされている。翌皇極天皇2年（**643**年）の**10月6日**には父から独断で大臣を譲られる。

これにより、実質的にも形式的にも蘇我氏の家督を継いだという見方があるが、この頃聖徳太子以来、皇室の周辺に国政を天皇中心に改革せんとする気運が強まったとされ、入鹿はこのような動きを押さえ古人大兄皇子を天皇につけようと図ったが、そのために邪魔になる山背大兄王ら上宮王家の人々を自殺に追い込んだ。大臣を譲られてから1ヶ

	蘇我入鹿	凡例
時代	飛鳥時代	
生誕	推古天皇19年 (611年)? ^{[1]}	
死没	皇極天皇4年6月12日（645年7月10日）	
別名	林大臣、鞍作大郎	
墓所	奈良県高市郡明日香村の飛鳥寺	
官位	大臣	
主君	皇極天皇	
氏族	蘇我氏	
父母	父：蘇我蝦夷	
兄弟	入鹿、物部大臣、手杯娘(舒明天皇妻)? ^{[2]}	

後日、父・蝦夷も自害し、ここに蘇我本宗家は滅びる。この後も従兄弟の石川麻呂とその弟の赤兄が大臣を務めるが、石川麻呂はのちに謀反の疑いをかけられ自害し、赤兄も壬申の乱で流罪となり、以降は蘇我氏（石川氏）は納言・参議まで出世するのがやっとな状態となった。かつての勢いは戻らないまま、平安時代初期には公卿が出るのも途絶え、歴史の表舞台から完全に姿を消す事になる。

『日本書紀』は入鹿の事績を蘇我氏の越権行為ならびに古人大兄皇子への皇位継承の準備と批判しているが、蘇我氏は元来開明的だった事もあり、唐や百済等当時の国際状況に対応する為だったという意見もある。実際、「上の宮門」「谷の宮門」の跡地とされる場所からは、武器庫の遺構や武器が発掘されている。また、遣唐使も度々派遣されており、唐の日本派兵を蘇我氏が警戒していたことが窺える。



蘇我氏略系図 SVGで表示 (対応ブラウザのみ)



蘇我入鹿首塚と甘櫨丘

入鹿の暗殺とそれに続く蘇我本宗家の滅亡に関して、近年では、改革の主導権争いを巡る蘇我氏と皇族や反蘇我氏勢力との確執が暗殺のきっかけになったとする見方がある。

蘇我入鹿という名前には、いくつかの議論がある。明治学院大学教授の武光誠は、当時の時代は精霊崇拝の思想に基づき、動物に因んだ名前を付けることが多かったという風潮から、蘇我入鹿も、海の神の力を借りる為に、イルカにあやかってこの名前を名乗ったという自説を表明している^[3]。しかしその一方で京都府立大学学長であった門脇禎二らは、中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）が彼の本当の名前を資料とともに消して、卑しい名前を勝手に名付けたという説を表明している。

関連史跡

飛鳥寺境内と甘樫丘にほど近い場所に、「入鹿の首塚」が存在する。また、**2005年**（平成**17年**）**11月13日**に奈良県明日香村において、蘇我入鹿邸跡とみられる遺構が発掘された。

三重県松阪市飯高町舟戸にも「入鹿の首塚」と称する五輪塔があり、同地の高見山まで入鹿の首が飛来してこの地で力尽きて落ちたのを村人らが手厚く葬ったものとされている。

この高見山に鎌を持ちこむと必ず怪我をするとされており、それは入鹿を殺害した中臣鎌足の「鎌」の字を忌むからであるとされている。

入鹿が登場する作品

戯曲

- 近松半二ほか『妹背山婦女庭訓』（大坂竹本座初演、1771年）

小説

- 井上靖『額田女王』（毎日新聞社）
- 黒岩重吾『中大兄皇子伝』（講談社）
- 黒岩重吾『落日の王子 ― 蘇我入鹿』（文藝春秋）
- 町井登志夫『飛鳥燃ゆ ― 改革者・蘇我入鹿』（PHP研究所）

漫画

- ムロタニツネ象『聖徳太子 仏教伝来と法隆寺』（学習研究社／図解まんが日本史）
- 原島サブロー『天智天皇 大化の改新』（学習研究社／図解まんが日本史）
- 山岸凉子『日出処の天子』『馬屋古女王』（白泉社）
- 里中満智子『天上の虹』（講談社）

- [永久保貴一](#)『[変幻退魔夜行カルラ舞う!](#)』
- [長岡良子](#)『[暁の回廊](#)』（[秋田書店](#)）
- [増田こうすけ](#)『[増田こうすけ劇場 ギャグマンガ日和](#)』（[集英社](#)/[ジャンプ・コミックス](#)）
- [安曇祈](#)『[青キ縁ノ箱 ～ Blue-Arc-of-Destiny](#)』（[pixivコミック](#)）
- [中村真理子](#)、[園村昌弘](#)（原著）『[天智と天武 一新説・日本書紀一](#)』（[ビッグコミックス](#)）

テレビドラマ

- 『[額田女王](#)』（[テレビ朝日](#)、1980年、演：[津川雅彦](#)）
- 『[大化改新](#)』（[NHK](#)、2005年、演：[渡部篤郎](#)）

脚注

- ↑ 享年は一説に35とも。
- ↑ [箭田皇女](#)を産んだとされるが、所拠不明。
- ↑ [武光誠](#)『[語源に隠された日本史](#)』（[河出書房新社](#)）70頁

関連項目

- [蘇我氏](#)
- [入鹿神社](#)
- [皇位篡奪](#)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=蘇我入鹿&oldid=75020017>」から取得

最終更新 **2019年11月16日 (土) 05:35**（**日時は個人設定で未設定ならばUTC**）。

テキストは[クリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス](#)の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。